

2016年10月3日

2017年オリンパス／WWFカレンダー

「Galapagos Islands／絶海に生きる - ガラパゴス諸島」

オリンパス株式会社 (社長: 笹 宏行) は、世界的な動物写真家の岩合光昭氏が撮り下ろした写真による、2017年オリンパス／WWF カレンダー「Galapagos Islands／絶海に生きる-ガラパゴス諸島」を製作しました。

南米大陸から西に 1,000km ほど離れた太平洋上の赤道直下に浮かぶガラパゴス諸島。古いスペイン語でカメを意味するガラパゴが名前の由来であるように、世界最大のリクガメであるガラパゴスゾウガメなど、独自の進化を遂げた爬虫類や鳥類が生息し、その多くが固有種として知られています。今回、岩合光昭氏がオリンパスのミラーレス一眼「OM-D E-M1」で、動物写真家としての出発点でもあるガラパゴス諸島を撮影しました。

本カレンダーは 1986 年より毎年製作され、2017 年度版で 32 年目を迎えます。WWF ジャパン (公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン) で販売されたカレンダーの利益は、WWF の地球環境保全活動に役立てられます。



©Mitsuaki Iwago

補足資料

●岩合光昭氏による撮り下ろし

19歳の時に訪れたガラパゴス諸島の自然に圧倒されて動物写真家としての道を歩み始めた岩合氏が、本カレンダーのために撮り下ろした作品です。長年にわたり数多くの動物を撮影している岩合氏ならではの美しい瞬間が捉えられています。

●WWFの地球環境保全に貢献

1986年から毎年WWFジャパンに寄贈されているカレンダーは、10月下旬からWWFの通販パンダショップ(<http://shop.wwf.or.jp/>)で1部1,400円(税別)で販売されます。その全ての利益はWWFの地球環境保全活動に役立てられます。

[WWF:World Wide Fund for Nature 世界自然保護基金]

世界約100カ国以上で活動する地球環境保全団体です。絶滅の恐れのある野生生物の保護を目的として、1961年にスイスで設立されました。現在は、森や海などの生物多様性を保全すること、木材や魚介類など自然資源の利用を持続可能なものにする、地球温暖化を防ぐことなどに力を注ぎ、人と自然が共存できる社会の実現を目指しています。

●地球に優しいカレンダー

PVC(ポリ塩化ビニール)やらせん金属を使用しない設計で、すべてのページにFSC(森林管理協議会)の認証紙を使用するなど、地球環境保全に配慮して製作されています。また、月ごとに切り捨てる必要のないブックタイプのため、使用後は写真集としてもご利用いただけます。

●人にも優しいカレンダー



色覚の個人差を問わずに多くの方がご覧になりやすいように、カラーユニバーサルデザイン(CUD)に配慮して製作しています。カラーユニバーサル認証はCUDO(NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構)により、カラーユニバーサルデザインが実現できたと確認された場合に発行される第三者認証です。

●岩合光昭(いわごうみつあき)氏 略歴

1950年東京生まれ。19歳の時に訪れたガラパゴス諸島の自然の驚異に圧倒され、動物写真家としての道を歩み始める。以来、地球上のあらゆる地域をフィールドに撮影を続け、アフリカ・セレンゲティ国立公園に1年半にわたり滞在して撮影をした写真集「おきて」は、世界中でベストセラーとなる。また、独特の色やコントラストを持ち、想像力をかきたてる写真は、ナショナルジオグラフィック誌の表紙を2度飾るなど、全世界で高く評価されている。近年はカナダでホッキョクグマ、中国でジャイアントパンダやトキ、知床でオオワシやヒグマ、タンザニアでライオンやゾウなど、オリンパスのデジタル一眼カメラを駆使して、野生動物の写真を次々と発表している。2013年8月には、東京都写真美術館で写真展「ネコライオン」が開催された。最近はライフワークともいえるネコの撮影にも力を入れており、NHK BSで「岩合光昭の世界ネコ歩き」が好評放映中で、同名写真展が2015年4月を皮切りに日本各地を巡回中。最新作はウェブサイト「デジタル岩合(www.digitaliwago.com)」でも公開されている。

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。